

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞 (JPFSM) :

The effect of advanced glycation end products on cellular signaling molecules in skeletal muscle

Tatsuro Egawa^{1,2,3}, Yoshitaka Ohno⁴, Shingo Yokoyama⁴, Ayumi Goto^{2,3}, Rika Ito³,
Tatsuya Hayashi² and Katsumasa Goto^{3,4}

¹Laboratory of Health and Exercise Sciences, Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University,

²Laboratory of Sports and Exercise Medicine, Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University,

³Department of Physiology, Graduate School of Health Sciences, Toyohashi SOZO University,

⁴Laboratory of Physiology, School of Health Sciences, Toyohashi SOZO University

奨励賞 :

競技力が高いサッカー選手の状況判断時における脳内情報処理過程 －事象関連電位と筋電図反応時間を指標として－

松竹 貴大¹, 夏原 隆之², 小井土 正亮³, 鈴木 健介¹, 田部井 祐介³, 中山 雅雄³, 浅井 武³

¹筑波大学大学院人間総合科学研究科, ²東京成徳大学応用心理学部, ³筑波大学体育系

Reduction of voluntary physical activity in mice induced by toll-like receptor 7 agonist R-848

Eri Oyanagi¹, Masataka Uchida², Michael J. Kremenik¹ and Hiromi Yano¹

¹Department of Health and Sports Science, Kawasaki University of Medical Welfare,

²Faculty of Sport and Health Science, Ritsumeikan University

Effects of eicosapentaenoic acid intake on denervation-induced mitochondrial adaptation in mouse skeletal muscle

Kohei Takeda¹, Yu Kitaoka², Koichi Watanabe³, Shumpei Miyakawa³,
Martin R. Lindley⁴ and Tohru Takemasa¹

¹Graduate School of Comprehensive Human Science, University of Tsukuba,

²Department of Human Sciences, Kanagawa University,

³Division of Sports Medicine, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

⁴Translational Chemical Biology Research Group, Human Cellular and Molecular Genetics Research Laboratory,
School of Sport, Exercise and Health Sciences, Loughborough University

令和元年度学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 前田 清司

学会賞を受賞されました先生方におかれましては、誠におめでとうございます。日本体力医学会学会賞は、「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞に相応しい論文が選定されます。いずれの賞も学会員が筆頭著者の論文が対象となりますが、奨励賞は若手学会員が対象になります。今回は、学会賞選考委員の先生方から極めて高い評価を受けた1編が学会賞、若手学会員が筆頭著者の論文の中から高評価を得た3編が奨励賞として選定されました。奨励賞は、1編に絞ることができず、いずれも同等に高い評価を得た3編を選定することになりました。

ご存知のように、日本体力医学会は体力ならびにスポーツ医科学の研究の進歩、発展を促進させる使命を担っています。これを実現する上で、学会機関誌である「体力科学」と「JPFSM」は重要な役割を果たしています。学会員の先生方におかれましては、先生方の素晴らしい研究結果を「体力科学」あるいは「JPFSM」にてご発表いただければ幸いです。そして、学会員の先生方にとって、学会賞の受賞が憧れとなり続けることを祈念したいと思います。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2019年5月）議事録

日 時：2019年5月17日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭，永富良一各副理事長、

碓井外幸常務理事，宇高 潤，大野 誠、

小野寺昇，栗原 敏，後藤勝正，須田和裕、

須永美歌子，武政 徹，田中喜代次，田畑 泉、

成田和穂，前田清司，宮川俊平、

和気秀文各理事、

清田 寛，小林康孝，定本朋子各監事

欠席者：勝村俊仁，川原 貴，坂本静男，下光輝一、

竹森 重，浜岡隆文各理事，井上 茂監事、

徳田修司第75回大会長

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会開催中に前回の理事会議事録の内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 令和元年度決算見込みについて（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和元年度決算見込みについて報告があった。会費収入38,830,000円は見込みであるが、予定通りの収入となれば、令和元年度決算見込の収支差額は、2,343,744円の黒字となる旨、説明された。

3. 令和2年度予算案について（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和2年度予算案について報告があった。令和2年度予算案の収支差額は、1,840,000円の赤字予定であるが、会費収入が想定より増えれば、赤字は縮小することが加えられた。

4. 令和2年度事業計画案について（鈴木理事長）

資料に基づき、令和2年度事業計画案についての報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 会員の懲戒に関する規程案について

（成田倫理委員長）

本件は、昨年11月の理事会にて、2018年7月に診療放射線技師法違反容疑（本学会理事関与）に関する調査委員会が立ちあげられたことに鑑み、倫理委員会において罰則規定を作成することが提案されたことによる。

成田倫理委員長より、会員の懲戒に関する規程案について以下の説明がなされた。

本学会の会員の懲戒に関する規定は、本学会定款11条（除名）に、社員総会の決議によって当該会員を除名することができるのみで、これ以外に懲戒に関する規定はない。そのため、刑事事件を起こした会員に対し、適切な処分を下すことができるように、会員の懲戒に関する規程案を作成した。作成に際しては、ウェブサイト上に掲載されている複数の他学会の懲戒規定を参考にした。なお、多くの学会の懲戒規定内容

が非常に類似していた。会員の懲戒に関する規程案についての詳細は、下記の通り。会員の懲戒に関する下記の規程案について、本理事会で承認された。

会員の懲戒に関する規程（案）

令和元年5月17日制定

（目的）

第1条 この規程は、一般社団法人日本体力医学会（以下「本学会」）の会員の懲戒に関し必要な事項を定める。

（懲戒の種類等）

第2条 本学会が会員に課す懲戒処分は、次の各号のとおりとし、これらの懲戒を併科することができるものとする。

- 1) 訓戒：口頭にて将来を戒める
 - 2) 戒告：文書にて将来を戒める
 - 3) 譴責：始末書を提出させ、将来を戒める
 - 4) 委員会委員罷免：委員会委員を罷免し、相当な期間を定めて委員会委員の就任を停止する
 - 5) 役員罷免：役員を罷免し、相当な期間を定めて役員の就任資格を停止する
 - 6) 会員資格の停止：相当な期間を定めて会員資格を停止する
 - 7) 除名：会員資格を剥奪する
- 2 第1項第4号に該当する者は、委員会委員の就任停止期間が解除された後は、新たに選出する委員会委員の候補者としてすることができる。
- 3 第1項第5号に該当する者は、役員の就任資格停止期間が解除された後は、役員選挙の被選挙権者になることができる。
- 4 第1項第6号に該当する者は、会員資格停止期間中についても本学会の会費を納入しなければならない。また、会員資格停止期間中に退会した者は、本学会に再入会することはできない。

（処分の対象）

第3条 理事会は、次の各号に掲げる行為をなした会員を懲戒処分の対象とすることができる。

- 1) 刑罰法令に抵触する行為、または反社会的行為であり、それが本学会の名誉を毀損し、社会的信用を失墜させる行為
 - 2) 会員としての良識や品位に欠ける行為であり、それが本学会の名誉を毀損し、社会的信用を失墜させる行為
 - 3) その他、本学会の名誉を毀損し、社会的信用を失墜させる行為
- 2 理事会は、前項に記載する行為により懲戒処分に賦された会員について監督指導を行うべき職にある会員に対し、その職責の見地から、懲戒処分の対象とすることができる。

（処分の決定）

第4条 理事長は、第3条に規定する行為をなした疑いのある会員の存在が判明したときは、理事

会に諮り、直ちに当該行為にかかる調査を倫理委員会に指示を行い、その事実の有無、内容、程度、状況等を調査させなければならない。

- 2 理事長は事案の性質上別に調査委員会を設置して調査等をなすことが妥当とするときは、理事会に諮り、調査委員会を設置することができる。
- 3 第3条に該当する会員に対して処分通知をする前に、処分対象会員から委員会委員辞任届、役員辞任届、退会届などが提出された場合であっても、理事会の判断により、届出の受理を保留し、本規程に定める手続きを行うことができる。理事会は処分対象会員に届を留保していることをすみやかに連絡する。
- 4 理事会は倫理委員会または調査委員会の報告書に基づき処分を決定する。
- 5 第2条第4号から第6号の処分の期間は、6ヶ月以上3年以下とする。ただし、刑罰法令に抵触する行為のときは、その量刑に応じて3年を越えることができる。
- 6 第2条第4号から第7号の処分を決定するときは、処分対象会員に弁明の機会を与えなければならない。
- 7 会員に対する処分の決定は、社員総会の決議を経なければならない。ただし、第2条第1号から第3号に該当する処分を決定するときは、状況に応じて社員総会の決議を省略することができる。

(調査委員会)

- 第5条 第4条第2項の調査委員会を設置した場合、調査委員会は短期委員会とし、任務終了後に解散する。
- 2 調査委員会を設置する場合には、その委員は、理事および評議員各2名以上及び外部有識者(法律の専門家、弁護士等)から構成されるものとし、倫理委員会が理事会に推薦し、理事長が任命する。委員長は委員の互選で決定する。
 - 3 処分対象会員または処分事案につき利害関係のある者、審査の公正を害する虞のあるものは調査委員とすることはできない。
 - 4 調査委員会の議事及び審査は公開しない。

(勧告)

- 第6条 理事会は、第2条第4号から第6号に掲げる処分対象会員に対し、社員総会の決議を得るまでの間、社員総会に諮られる処分に該当する対応を勧告することができる。
- 2 第1項に定める理事会の勧告を受け入れた者の処分期間には、勧告を受け入れた日から社員総会での決定までの期間を参入することができる。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会において行う。

(附則)

この規程は、令和元年5月17日から施行する。

6. 学会賞について(前田学会賞選考委員長)

資料に基づき、審査結果が報告された。4月19日に開催された学会賞選考委員会において、学会賞(JPFMS)1件、奨励賞は同等の高評価を得た3件を選考したことが報告され、承認された。なお、学会賞(JPFMS)の副賞は、20万円、奨励賞の副賞は各5万円に決定された旨、併せて報告された。

【学会賞(JPFMS)】

◎「The effect of advanced glycation end products on cellular signaling molecules in skeletal muscle」(JPFMS7巻4号)

Tatsuro Egawa, Yoshitaka Ohno, Shingo Yokoyama, Ayumi Goto, Rika Ito, Tatsuya Hayashi and Katsumasa Goto

【奨励賞】

◎「競技力が高いサッカー選手の状況判断時における脳内情報処理過程-事象関連電位と筋電図反応時間を指標として-」(体力科学67巻1号)

松竹貴大, 夏原隆之, 小井土正亮, 鈴木健介, 田部井祐介, 中山雅雄, 浅井 武

◎「Reduction of voluntary physical activity in mice induced by toll-like receptor 7 agonist R-848」(JPFMS7巻3号)

Eri Oyanagi, Masataka Uchida, Michael J. Kremnik and Hiromi Yano

◎「Effects of eicosapentaenoic acid intake on denervation-induced mitochondrial adaptation in mouse skeletal muscle」(JPFMS7巻5号)

Kohei Takeda, Yu Kitaoka, Koichi Watanabe, Shumpei Miyakawa, Martin R. Lindley and Tohru Takemasa

7. 第8回「栄養とエイジング」国際会議への後援名義使用について(国際生命科学研究機構(ILSI Japan))(鈴木理事長)

資料に基づき、本学会宛てに国際生命科学研究機構(ILSI Japan)より、第8回「栄養とエイジング」国際会議への後援名義使用についてのお願いがあった旨説明され、審議の結果、承認された。

8. 第32回日本循環器病予防セミナーへの後援名義使用について(日本循環器病予防学会)(鈴木理事長)

資料に基づき、本学会宛てに日本循環器病予防学会より、第32回日本循環器病予防セミナーへの後援名義使用についてのお願いがあった旨説明され、審議の結果、承認された。

9. 第74回日本体力医学会大会における、日本体力医学会/日本肥満学会/日本サルコペニア・フレイル学会3学会合同シンポジウム-「サルコペニア肥満の定義と診断基準について」開催依頼について(鈴木理事長)

資料に基づき、本学会宛てに日本サルコペニア・フレイル学会より、第74回日本体力医学会大会における、

日本体力医学会/日本肥満学会/日本サルコペニア・フレイル学会3学会合同シンポジウム-「サルコペニア肥満の定義と診断基準について」の開催依頼があった旨説明され、審議の結果、承認された。

10. 第74回日本体力医学会大会における、教育講演「運動中の心停止に関する疫学」の日本疫学会共催依頼について（鈴木理事長）

資料に基づき、本学会宛てに日本疫学会より、第74回日本体力医学会大会における、教育講演「運動中の心停止に関する疫学」の日本疫学会共催依頼についてのお願いがあった旨説明され、審議の結果、承認された。

【報告事項】

1. 名誉会員候補者の推薦について（武政総務委員長）

資料に基づき、名誉会員推薦内規に基づいて、総務委員会にて名誉会員候補者の選出、その後、本学会理事会持回り審議、承認を行った事が報告された。今後は、9月の社員総会に諮り、承認されたのち、名誉会員となる旨、説明された。名誉会員候補者については、下記の通り。

（敬称略）

荒尾 孝（アラオ タカシ）71歳

公益財団法人明治安田厚生事業団顧問/早稲田大学名誉教授

本学会理事：2006年4月1日～2012年3月31日

菅原正志（スガワラ マサシ）70歳

西九州大学教授

第69回（長崎）大会長（2014年9月19～21日）

本間生夫（ホンマ イクオ）71歳

東京有明医療大学

本学会理事：2003年4月1日～2009年3月31日

※年齢は2019年7月31日現在

2. 役員選挙の進捗状況（事務局）

本年の名誉会員推薦に関する審議を本来2月の理事会で行わなければならない所、3月26日時点で名誉会員が決まっていなかったことが判明した。急遽、総務委員会で名誉会員の推薦候補者の検討を行った。その後、持ち回り理事会による承認を経て、名誉会員候補該当者に内諾確認後、理事、評議員会長、監事選挙通知を発送するという手順を踏むことになった結果、当初予定していた4月8日の理事、評議員会長、監事選挙通知の発送が遅れることになった。

尚、本件は6月に開催される理事長、副理事長、常務理事選挙の日程を厳守する方向で対応することになった。

また、学会事務局が、評議員会長、監事選挙用マークシートに一部誤りがある状態で、発送してしまったため、修正したマークシートを再送した旨の報告とお詫びがなされた。再発送費用は、学会支援機構がすべて負担する旨、併せて報告された。

3. 各種委員会報告

1) 編集委員会（田中委員長、後藤副委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況<投稿状況>(2018年9月1日～2019年4月26日)

「JPFMSM」誌：新規投稿40編（内海外4編）

※前年同期間：新規投稿39編（内海外4編）

4/26現在、審査中＝16編（採択11編（内海外0編）、不採択12編、原稿返却1編）

※受付不可8編（投稿規定に沿わない等で原稿返却中、国内1編、海外7編）

「体力科学」誌：新規投稿43編

（依頼教育講座含む）

※前年同期間：新規投稿50編（特集含む）

4/26現在、審査中＝15編（採択10編、不採択15編、修正投稿辞退3編）

<発行予定>

「JPFMSM」誌 Vol. 8, No. 3 (2019年5月25日発行) 4/26現在、掲載論文4編

「体力科学」誌 Vol. 68, No. 3 (2019年6月1日発行) 4/26現在、掲載論文6編

(2) JPFMSM投稿規定 [Correction] 掲載料追記 (2019.4.11)

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Correction	10,000	20,000

(3) 科学技術振興機構（JST）「ジャーナルコンサルティング事業」への応募

2) 渉外委員会（永富渉外委員長）

来年の3月にモナコにて、IOC主催の「IOC World Conference Prevention of Injury & Illness in Sport」という学会の開催が予定されている。本件について、本学会に後援名義使用の依頼が来た。渉外委員会ではすでに後援名義使用は認めている旨、報告された。

3) FAOPS2019運営委員会（和気委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) FAOPS2019大会が神戸国際会議場にて本年3月28日(木)～31日(日)に開催された。日本では初めての開催となった。42カ国から2252名の参加（723名の海外からの参加者を含む）を得て、成功裡に終了した。

(2) 日本体力医学会におきましてはFAOPS2019運営委員会を通じて、以下の企画を支援した。各企画ともほぼ満席状態のなかで活発な意見交換が行われた。

企画シンポジウム

Saturday, March 30th 10:00-12:00, Kobe International Conference Center 3F Reception Hall (room3)

[Session: S38 (LOCS)]

Cutting-edge research topics on skeletal muscle plasticity in health and diseases

Chairs:

Katsumasa Goto

(Toyohashi SOZO University, Japan)
Gordon S. Lynch
(The University of Melbourne, Australia)

Speakers:

Nobuharu L Fujii
(Tokyo Metropolitan University, Japan)
Shuichi Machida (Juntendo University, Japan)
Gordon S. Lynch
(The University of Melbourne, Australia)
Katsumasa Goto
(Toyohashi SOZO University, Japan)

一般シンポジウム

Friday, March 29th 18:30-20:00, Kobe International Conference Center 5F Meeting room 501 (room6)

[Session: S31 (General Symposium)]

Genomics of Sports and Exercise

Chairs:

Noriyuki Fuku (Juntendo University, Japan)
Ola Hanson (Lunds University, Sweden)

Speakers:

Eri Miyamoto-Mikami
(Juntendo University, Japan)
Ola Hanson (Lunds University, Sweden)
Hirofumi Zempo (Tokyo Seiei College, Japan)

特別企画

Saturday, March 30th 18:20-19:10, Kobe International Conference Center 1F Main Hall (room1)
[JSPFSM-Joint Special Talk]

Towards the Summit with Sport Science

Guest Speaker:

Nao Kodaira (Aizawa Hospital)

Guest co-speaker:

Masahiro Yuki (Shinshu University)

Interviewers and Commentators:

Yukio Nishimura (Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science)

Mikako Sunaga

(Nippon Sport Science of University)

Shuichi Koizumi (University of Yamanashi)

(3) その他, 一般演題発表等も含め多数の本学会会員の参加があった。経済的な支援と併せて, FAOPS2019の後援団体としての役割を十分に全うすることができた。

4) その他 (学会賞受賞論文取り下げの件)

(田中編集委員長, 後藤編集副委員長)

真田樹義氏から, 学会賞受賞論文の取り下げ依頼があった旨, 報告された。

上記の経緯として, 宮地元理事が所属する研究所の上長より, 法令違反を犯して作成され, 体力科学に掲載された論文の編集委員長に, 当該事案を報告し, 「本論文の今後の取り扱いを委ねる」よう指示され, 本年3月12日, その旨, 宮地元理事から田中

編集委員長に伝えられた。3月14日, 編集委員長, 編集副委員長から, 真田氏, 宮地元理事に対し, 「掲載取り下げ」という処分を下すことを検討する余地もあるが, 著者側から自主的に取り下げたいと申し出て貰うことが適切である旨, 回答した。編集委員会からの申し出に従い, 3月20日に真田氏より, 「論文取り下げ願い書」が押印付きで編集委員会宛に送られた。現在, 本学会には罰則規定が運用されておらず, 掲載論文取り下げ処分を下すことはできない。そこで, 著者らが自発的に「取り下げる」よう促すことによって上記対応となった。尚, 本取り下げ論文は2011年の日本体力医学会賞受賞論文である。本件は, 本論文の掲載取り下げと同時に副賞返金を伴うが, 田中編集委員長より, 本論文の掲載取り下げと同時に副賞返金まで求めることは, 学会によるパワーハラスメントになる可能性があるのではないかとの意見が出された。本件は, 弁護士の意見を聞き, 対応することとなった。

4. 第74回(茨城)大会の進捗状況

(前田第74回大会事務局長)

配布資料に基づき, 大会の進捗状況について報告された。

会期: 2019年9月19日(木)~21日(土)

会場: つくば国際会議場

テーマ: 元気な人と社会を育むスポーツ医科学の挑戦
参加者数(見込み): 3,000人

大会の進捗状況

1) 2019年4月末時点

(前回報告以降: 2019年2月以降)

(1) 協賛企業の募集(継続)

(2) 演題登録・事前参加登録・宿泊予約の開始
(4/9: 会員にメールにて通知)

(3) 大会プログラムの検討

(予定プログラム: 2019年4月末時点)

大会長講演: 田中喜代次大会長

座長: 鈴木政登理事長

基調講演: 秋下雅弘教授(東京大学医学部)

座長: 田中喜代次大会長

教育講演 6件

シンポジウム 28件

イブニングセミナー 1件

ワークショップ 3件

2) 2019年5月以降(主な事項)

(1) 協賛企業の募集(継続: 最重要事項)

(2) 大会プログラムの検討(継続)

5. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況

(鈴木理事長(徳田第75回大会長代理))

大会の進捗状況等について報告された。

会期: 2020年9月24日(木)~26日(土)

会場: 鹿児島大学(共通教育センター, 稲盛会館)

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2019年8月）議事録

日 時：2019年8月30日（金）午後5時30分～7時35分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一各副理事長、

碓井外幸常務理事、宇高 潤、大野 誠、

勝村俊仁、栗原 敏、後藤勝正、坂本静男、

須田和裕、須永美歌子、武政 徹、竹森 重、

田中喜代次、成田和穂、宮川俊平、

和気秀文各理事、清田 寛、小林康孝各監事、

徳田修司第75回大会長、

加藤 公第76回大会長候補

欠席者：小野寺昇、川原 貴、下光輝一、田畑 泉、

浜岡隆文、前田清司各理事、

井上 茂、定本朋子各監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時まで訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 令和元年度庶務報告に関する件について

（武政総務委員長）

資料に基づき、令和元年度庶務について報告がなされた。

2019年7月31日現在、正会員数は4073名、評議員は537名（内医師84名、非医師453名）、新入会員323名、退会者426名、103名減少（内自然退会237名）であることが報告された。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上会費未納者については第74回茨城大会を期限として、自然退会とすることが承認された。リストに含まれている会員で声掛けできる場合は、会費納入の催促をして欲しいとの依頼がなされた。

3. 令和元年度会計報告（決算）に関する件について

（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和元年度決算について報告がなされた。

収入の部 会費収入が37,574,000円（内正会員35,450,000円）で、栗原理事からの寄付金100万円が計上されていると報告された。収入合計は81,696,256円となった。

支出の部 国内外交流費の100万のオーバーは栗原理事からの100万円の寄付金をFAOPSの支援にあてたこと、それ以外については予算とはほぼ同額に落ち着き、支出合計は79,006,152円となった。当年度収支差額は2,690,104円の黒字決算であった。

本決算については公認会計士のチェックと監事の監査が行われた事が併せて報告された。

4. 令和元年度事業報告に関する件について

（武政総務委員長）

資料に基づき、令和元年度事業報告について報告さ

れた。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 令和2年度会計報告（予算）に関する件について

（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和2年度予算について報告がなされた。

収入の部 現在の会員数に基づき会費納入率実績87%として試算し、正会員会費は35,260,000円、会費収入全体は37,440,000円で計上した。収入合計は98,138,800円である。

支出の部 選挙積立金預金繰入は、4年に1度の選挙になったこともあり、75万円から30万円に減額した。支出合計は99,184,800円であり、当年度収支差額は-1,046,000円である。

鈴木理事長より、平成20年からの正味財産額および会員数の推移の資料が提出された。会員数は10年前に比べ1,000人の減少があった。1億近い財産があるので、次期理事会において、高齢者の健康問題や生活習慣病の最上流にある肥満の問題等に特化したプロジェクトチームを発足し、本学会で研究発表されたものを中心に体系化する活動を学術委員会を中心に行う予定であるとの報告がなされた。

6. 評議員推薦に関する件（大野評議員選考委員長）

資料に基づき、評議員選考委員会において候補者13名に対しての審査を行い、1名の候補者（研究業績が不足）を除いた候補者12名が評議員選考条件を満たした旨の報告があり、2019年度評議員候補者として12名（内、女性2名）を評議員に推薦することが承認された。また、内規を読まずに推薦して来られる方が見受けられたので、評議員申請書の改定作業を行う予定である。

理事会より、評議員推薦のハードルが高くなっているので、条件の緩和を検討してほしいと依頼された。

7. 次期各種委員会への申し送り事項の提出について

（鈴木理事長）

資料に基づき、役員および各種委員会の任期は次回社員総会で任期満了となるので、業務引き継ぎに伴う資料を各委員会に提出して頂きたい旨報告された。編集委員会だけは業務の切れ目が無いため、次期編集委員長に後藤勝正理事、副編集委員長に和気秀文理事および前田清司理事にお願いしたい旨打診され、理事会で承認後、後藤、和気理事から承諾を得た。前田理事は欠席の為、後日就任の可否を尋ねることになった。

8. 次期理事長推薦理事候補者について（鈴木理事長）

役員選挙で選ばれた理事以外の理事候補者について、須永美歌子現理事を今期に引き続き社員総会に推薦したいと提案があり、承認された。

9. 協賛会社の特典について（鈴木理事長）

7月14日にウイスマーという会社の“酸化ストレスに関する講演”があり、その場で本学会の賛助会員に

ならないかと打診したことが報告された。賛助会員としての特典が明文化されていないので、総務委員会で検討して再度審議することとした。

10. 森本武利名誉会員追悼文執筆者の選定について (鈴木理事長)

森本武利名誉会員追悼文執筆者について検討がなされ、信州大学の能勢博先生に依頼することが承認された。

11. 佐々木隆名誉会員追悼文執筆者の選定について (鈴木理事長)

佐々木隆名誉会員追悼文執筆者について検討がなされ、広島文化学園大学の山崎昌廣先生に依頼することが承認された。

12. その他

・FAOPS2019のお礼 (鈴木理事長)

FAOPS2019の鍋倉淳一大会長より、学会にお礼が言いたいとの申し出があり、9月18日の理事会時にお越しいただくこととした。

・学会賞取り下げの件 (鈴木理事長)

前回の理事会で受理された学会賞論文取り下げに付随した学会賞副賞60万円の返却について、審議された。この件を関連弁護士に相談した処、体力科学に掲載された学会賞論文を取り下げたのであるから、それに付随した副賞60万円も返却するのが筋である、との回答があったことが報告された。これに関しては大半の理事が当然返却を求めるべきであるとの意見であった。これに基づき、理事長名で正式に筆頭著者に対して学会賞の取り下げが決定した事、それに伴い、副賞の返金を求める文書を送ることが承認された。学会HP上には、「何年度の学会賞は取り消されました」と一文アナウンスをし、時間が経ったらこのアナウンス自体も消去することとした。

【報告事項】

1. 日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について (碓井称号委員長)

資料に基づき、日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について報告がなされた。

日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者24名の氏名リストが掲示され、承認された(内、終身称号者は5名)。

2. 第30回スポーツ医学研修会修了試験結果について (碓井学術委員長, 須永スポーツ医学研修会委員)

資料に基づき、第30回スポーツ医学研修会修了試験結果について報告がなされた。

研修会を受講した参加者15名が8月4日に修了試験(試験問題50問)を受け、2名当日欠席、1名が不合格で残りの12名が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。また、スポーツ医学研修会基礎コースと応用コースについて、アンケートの結果満足度が高かったこと、来年も日本体育大学で開催することが報告された。但し、研修会の会場使用料に関しては、日本体育大学の要望も聴きながら、中里浩一

委員長とさらに検討する必要がある事が強調された。

3. 役員改選結果報告 (鈴木理事長)

資料に基づき、役員選挙結果について理事長に鈴木政登現理事長、副理事長に碓井外幸現常務理事と西平賀昭現副理事長、常務理事に武政徹現理事が当選されたことが報告された。また、副理事長については第1副理事長に投票数の多かった碓井外幸現常務理事、第2副理事長に西平賀昭現副理事長が選出されたことを新理事会で提案する予定であることが報告された。

4. 各種委員会報告

・総務委員会 (武政委員長)

資料に基づき、委員会報告がなされた。

1) シニア会員新設による会員数減少の抑止

2) 理事長・副理事長・常務理事選挙の不在者投票の検討

3) オンライン名簿継続の可否

・編集委員会 (田中委員長, 後藤副委員長)

資料に基づき、委員会報告がなされた。

◎学会誌出版 (学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFISM)」

Vol. 7のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 8のNo. 1, No. 2, No. 3

「体力科学」

Vol. 67のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 68のNo. 1, No. 2, No. 3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施

◎JPFISM掲載論文リストのメール配信

◎投稿規定追記 (2018.9.8)

「JPFISM」

Correctionの掲載料を追記

Ethics/Conflicts of Interest (COI) の記載例を追記
「体力科学」

地方会抄録の掲載料を追記

倫理・利益相反の記載例を追記

◎JPFISMオリジナルWebsiteの運用, Online Firstの掲載

◎ジャーナルの活性化対策の検討

「特集号」の掲載・企画

注目されているhot topicに焦点を当てた「特集号」を掲載

「JPFISM」Vol. 7, No. 4

第1回特集: Aging and Skeletal Muscle Atrophy
4編掲載

「体力科学」Vol. 67, No. 5

第2回特集: エネルギー代謝 6編掲載

「JPFISM」Vol. 8, No. 5

第2回特集: Exercise in hypertension

6編掲載予定

「体力科学」Vol. 68, No. 5

第3回特集: 介護予防を考える 6編掲載予定

◎プライバシーポリシーを公開

◎海外Editor 選定の準備

◎第9回アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会 (The 9th Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies Congress: FAOPS2019) でのJPFMSおよび体力科学の展示

・学術委員会 (碓井委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

学会の予算削減措置の一環としてプロジェクト研究の公募が取り止めになった現在, 学術委員会としてはスポーツ医学研修会と「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」をいかに魅力あるものにして, 多くの受講希望者を惹きつけるかが課題である. スポーツ医学研修会委員会が参加者からの声を聴きながら毎回様々な試みを打ち出してきているが, いまだ参加者数が低迷を続けているのが現状であると報告された.

・渉外委員会 (永富委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

◎国際交流事業

1) アジアオセアニア生理学会学術集会 FAOPS2019 2019.3.28-3.31

JSPFMS Special Talk

小平奈緒 (相澤病院)・結城匡啓 (信州大学)

2) ECSS

①2019 Prague 2019.7.3-6

ECSS-JSPFMS Exchange Symposium “Lactate/Pyruvate Metabolism in Skeletal Muscle: Energy Substrates and Beyond”

シンポジスト: 北岡 祐 (神奈川大学), 星野太佑 (電気通信大学), 橋本健志 (立命館大学)

②2020 Seville 2020.7.1-3

ECSS-JSPFMS Exchange Symposium “Muscle Relaxation in Sports”

シンポジスト: 加藤考基 (南山大学), 大高千明 (奈良女子大学), Vogt, Tobias (ケルン体育大学: 座長)

3) 第74回日本体力医学会大会 (つくば) における国際交流事業

ECSS 2018 Young Investigators Award Winnersの招聘

4) 国際学術交流奨励賞 受賞者16名

5) 2020横浜スポーツ学術会議 (2020.9.8-12) のシンポジウム企画

(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)

6) 他の国際学会との連携

①FIMS (国際スポーツ医学会) 2018.9.12-14 Rio de Janeiro

②AFSM (アジアスポーツ医学会)

③IBRO (International Brain Research Organization) 2019

Satellite for International Sport Neuroscience Conference 2019.9.18-19

(<http://ibro2019.org/index.php?gt=pro/pro07>)

④ACSS (Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会への参加依頼 (2019.3月)

設立時参加国 (予定): China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan

◎国内関連学術団体との交流・連携

1) 脳心血管病予防に関する包括的管理チャート2019の改訂

2) 国内学会との連携

①第97回日本生理学会大会 (2020) 他学会連携シンポジウム

②日本体力医学会/日本肥満学会/日本サルコペニア・フレイル学会合同シンポジウム (第74回日本体力医学会 つくば大会)

3) 日本スポーツ協会: 日本体力医学会における講演・シンポジウム参加による日本スポーツ協会認定スポーツドクターの単位認定 (第74回大会から)

◎日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化

1) 広報委員会と連携

・倫理委員会 (成田委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

◎「診療放射線技師法違反容疑」に関する調査委員会の設置, 調査活動および報告書の作成

◎「会員の懲戒に関する規程」の制定

・広報委員会 (須永委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

現行サイトは, 前々広報委員長の武政先生を中心に2013年6月にリニューアル (2014年7月に英語版追加). 現行サイトになって6年経過したため, 次期委員会でリニューアルが必要かもしれない.

・利益相反委員会 (永富委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

倫理委員会と協力して, 学会においてヒトを対象とする医学研究に対する倫理的な配慮, 研究倫理および利益相反に関するチュートリアルを定期的に開催することを検討.

・全国地方会実行委員会 (竹森委員長)

資料に基づき, 委員会報告がなされた.

非会員非招聘演者の地方会大会抄録の体力科学誌掲載料を含む, 地方会と本部の間の資金の流れを整理する方式を定め, 運用上の問題点を改善した.

5. 第74回 (茨城) 大会の進捗状況 (田中大会長)

配布資料に基づき, 以下の状況であることが報告された.

会 期: 2019年9月19日 (木)~21日 (土)

会 場: つくば国際会議場

テーマ: 元気な人と社会を育むスポーツ医科学の挑戦 一般演題

口頭発表: 338演題

ポスター発表: 489演題

英語口頭発表: 6演題

合計: 833演題

演題登録された方で年会費未納の方がいれば督促を行う.

6. 第75回 (鹿児島) 大会の進捗状況 (徳田大会長)

配布資料に基づき, 大会の準備状況等について順調

に進められている旨、報告された。

会 期：2020年9月24日(木)～26日(土)

会 場：鹿児島大学（共通教育センター，稲盛会館）

テーマ：チェストいけ！日本体力医学会

－健康長寿を支える体力医学の未来－

南九州地方会を共催という形にしてもいいか提案がされたが、前例も無いため見送られた。

7. 第76回（三重）大会の進捗状況（加藤大会長候補）

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会 期：2021年9月17日(金)～19日(日)

会 場：三重県総合文化センター

8. その他

- ・大会長講演原稿の誤り

（田中編集委員長，後藤編集副委員長）

第73回大会長の戎先生より、体力科学68巻1号に掲載されている大会長講演の原稿が、運営業者のライトスタッフの手違いにより、予稿集に掲載した原稿（英文）を再度編集事務局に送付してしまい、本来掲載されなければならない大会長講演の原稿

（和文）が掲載されていなかったと報告された。要望としてはライトスタッフから戎大会長への謝罪文と正しい原稿の掲載を求められたが、謝罪文の掲載はせず、正しい原稿は次号に掲載し、また今回の経験を機に、再発防止策を編集委員会で検討することとした。

- ・大会時の書籍販売について（田中第74回大会長）

第74回大会長の田中先生より、大会期間中に設ける書籍販売のブースで書籍販売会社の儲けがほとんどないということが報告され、書籍販売に限ってブース出展料を免除することは可能かどうかを検討された。他の企業も同じように出展料を支払っているため、書籍販売に限定した特例は認められないとの結論になった。

- ・「医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス」の刊行について

（田中学術刊行物小委員長，碓井学術委員長）

田中学術刊行物小委員長より、9月10日頃に「医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス」が刊行予定である旨報告があり、碓井学術委員長より、現役員、次期役員に献本し、第74回茨城大会でデスクに置いて販売を予定していると報告された。

第84回日本体力医学会中国・四国地方会のご案内

- ・期日：令和元年11月30日(土)、12月1日(日)
- ・会場：愛媛大学共通教育棟北別館 北41教室
(愛媛県松山市文京町3番城北キャンパス)

○プログラム

演題数により変更になる場合があります。

1 日目：令和元年11月30日(土)

12：45～13：30 幹事会

13：30～13：50 受付

13：50～14：00 挨拶

14：00～16：00 研究発表(1)

16：15～17：15

特別講演「サルコペニアとフレイルの最前線」

講師：小原克彦先生(愛媛大学社会共創学部教授)

18：00～20：00

情報交換会(会場：食堂2階リーセス)

2 日目：令和元年12月1日(日)

8：45～9：00 受付

9：00～11：30 研究発表(2)

11：30～12：00

平成30年度日本体力医学会中国・四国地方会奨励

賞授賞講演

12：00～12：30 総会

○学会参加、情報交換会参加の申し込み

学会および情報交換会の参加申し込みについては、11月15日(金)【必着】までに下記の内容をE-mailでお知らせください。

以下は、全ての方お知らせください

- ・氏名、所属、住所、Tel、Fax、E-mail
- ・情報交換会(参加する or 参加しない)
- ・研究発表(あり or なし)

以下は、研究発表を行う方のみお知らせください

- ・演題名
- ・発表者及び共同研究者名(発表者が複数の場合は発表者に「○」をつけてください)
- ・発表用パソコンの持ち込み(あり or なし)
- ・学会誌「体力科学」への抄録掲載の希望(希望する or 希望しない)

以下は、幹事の方のみお知らせください

- ・第84回日本体力医学会中国・四国地方会への幹事会(参加する or 参加しない)

○学会参加費：会 員：1,000円

非会員：2,000円

学生、院生：無 料

○情報交換会

情報交換会費：4,000円(学生・院生：3,000円)

*会費の支払いは、学会当日受付にてお願いします。

会場：「食堂2階リーセス」(愛媛県松山市文京町3 愛媛大学城北キャンパス内)

○演題申し込みおよび予稿集原稿

1. 演題の申し込みはE-mailで11月15日(金)【必着】までをお願いします。

まず、申し込みの際には、以下の4項目についてお知らせ下さい。

1. 発表者及び共同研究者名、

3. 連絡先(Tel, Fax, E-mail) 4. 演題名

2. 予稿集の原稿を11月22日(金)【必着】までに郵送またはE-mail(ワード添付書類)でご提出ください。原稿はA4用紙2枚に上下左右の余白を2cm取り、タイトルは18ポイント、所属・氏名・本文は12ポイントで作成してください。発表者が複数の場合は、演者の前に○印を付けてください。添付されたWord書類はこちらで印刷し、郵送原稿はそのまま複写します。図表も添付可能ですが、こちらで若干の修正を加えさせて頂く場合がありますのでご了承ください。

学会参加、一般発表、予稿集原稿の送付先、情報交換会の申込先、問い合わせ等

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

愛媛大学社会共創学部 山本直史 宛

TEL：089-927-9473 FAX：089-927-9396

E-mail：yamamoto.naofumi.mk@ehime-u.ac.jp

○一般発表について

- ・発表時間は、発表10分、質疑応答4分の計14分とします(演題数によって変更有り)。
- ・発表は、パソコンの画面映写とします。プロジェクタはこちらで準備します。
- ・事務局側で準備するパソコンのOSおよびアプリケーションは以下の通りです。OS：Windows 10、アプリケーション：Power Point 2016(Macintosh本体の用意はいたしません)
- ・ご自身のパソコンを持ち込まれて発表されても構いませんが、ケーブル接続等の作業につきましては発表者ご自身でお願いします。
- ・Macintoshはプロジェクタとの接続に変換ケーブルが必要です(変換ケーブルの種類は機種によって異なります)。ケーブルは発表者が必ずご持参下さい。

○会場案内

愛媛大学HP：<http://www.ehime-u.ac.jp/>参照

*本学は、城北地区、重信地区、樟味地区、持田地区にキャンパスがございいますが、会場は城北キャンパスです。お間違えのないようにお気をつけください。

*車でもお越し頂けます。正門からお入りください。

*学内の駐車場は無料ですが、駐車スペースは十分ではありません。満車により、近隣の有料駐車場にお停めいただく可能性もございます。

○宿泊施設

「大街道」「平和通」「ロープウェイ街」近辺のホテルは、大学および繁華街(大街道・銀天街)に近く、お勧めです。繁華街(大街道入口)から大学までは徒歩で15分程度です。

詳しくはインターネット等でお調べいただき、各自で手配をお願いします。

○健康運動指導士及び健康運動実践指導者の方へ

本学会は、健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として申請予定です。

○学会誌「体力科学」への掲載用原稿

学会誌「体力科学」への掲載用原稿は、地方会事務局

がとりまとめ、学会誌編集事務局へ送付します。下記の書式に従いE-mailにて12月6日(金)(必着)までに地方会事務局の方へお送りください。なお、筆頭著者は日本体力医学会の会員に限られますが、共著者はその限りではありません。

掲載原稿送付先：jpsfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp
(地方会事務局)

(提出原稿書式)

- 1) 原稿の1枚目から演題名、発表者名、所属名、本文の順にお書きください。
- 2) 900字以内になるよう作成してください(演題名、発表者名、所属名、本文を含む)。
- 3) 図表は認められません。

第34回日本体力医学会近畿地方会 一般演題募集のご案内

■日時：令和2年2月29日(土) 9:55~16:30予定
(受付9:30予定)

■会場：大阪市立大学医学部 阿倍野キャンパス

■アクセス：

JR天王寺駅、近鉄あべの橋駅、地下鉄御堂筋線・地下鉄谷町線天王寺駅、いずれも徒歩 約10分

■基調講演：

「一般的な運動のオーバートレーニング」
(14:40~15:10)

川原 貴(元国立スポーツ科学センター長)

■シンポジウム：

「スポーツパフォーマンスー生理・心理学と実践を繋げて考える」(15:10~16:40)

シンポジスト：

石井 聡(大阪市立大学)、中谷 昭(関西福祉大学)、
後藤一成(立命館大学)、大槻伸吾(大阪産業大学)

■一般演題募集：

体力・スポーツ医科学に関する演題

抄録原稿はMS Wordで作成し、①演題、②演者(発表者に○印)③所属、④本文(目的、方法、結果、考察の順で)を900字以内で記載して下さい。図表は認めません。

下記送り先のメールアドレスまでお送りください。

- ・今回の地方会では、ポスター発表と口頭発表を設けます。
- ・ポスター発表の中から若手を対象とした学術奨励賞を選考します。40歳未満の本学会に所属する会員で筆頭演者を対象とします。学術奨励賞の応募をご希望される方は、その旨を演題応募にあわせてお伝え

ください。

- ・発表形式(ポスターか口頭発表)の決定は、近畿地方会幹事会に一任させていただきますことをご了承ください。

※演者は共同演者を含め、会員・非会員に限らず、どなたでも発表できます。

- ・学会終了後には、学会の報告として学会誌『体力科学』へ抄録を掲載いたします。筆頭演者が非会員で、掲載を希望される場合には、掲載料として3,000円を学会当日に申し受けます。

■一般演題締め切り期日：

2019年11月22日(金)(消印有効)

■健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格をお持ちの方へお知らせ：

日本体力医学会第34回近畿地方会の参加により、健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義2.0単位が認められます(認定番号：196801)。

学会当日は、健康運動指導士証または健康運動実践指導者証を必ずご持参ください。

(お忘れの場合には単位の認定ができかねます)

当日お渡しします受講証明書原本は、各人の資格更新申請時期まで大切に保管ください。

■送り先及び問い合わせ先：

大阪市立大学医学部運動生体医学 吉川貴仁

E-mail: wsports@med.osaka-cu.ac.jp

FAX: 06-6646-6067

第42回（2020年度）公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ① 体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ② 高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し、研究報告等に不慣れた人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ① 「暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において、スポーツウェア、用品の暑熱環境下における暑さ対策は一層重要になっています。スポーツウェア、用品における暑熱環境下での快適性を実現できる幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ② 「衣服内環境を快適にする湿度をコントロールする手法に関する研究」
近年、衣服内の快適性に関して、湿度の影響が注目されていますが、衣服内の湿度分布の探求や素材の吸放湿性、吸汗速乾性などと快適性との関連性が十分には解明されていません。快適性を実現する衣服内湿度の理論とそれを実現する手法に関する提言を頂きたい。
- ③ 「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」
運動後のリカバリーはトップアスリートから一般の愛好家まで、スポーツの楽しみを継続するうえで非常に重要です。運動後の疲労回復や運動パフォーマンスの維持向上のための「運動後のリカバリーに有効なクールダウン手法」について提言を頂きたい。
- ④ 「運動時におけるウェアに関するシミュレーションシステムの構築」（衣服圧、エアロダイナミクス、衣服内温湿度分布など）
スポーツウェア、用具の開発は実際の人の運動を物理的あるいは生理的に評価し進めることが多いが、開発の精度を上げていくために、あるいは効率化していくために、シミュレーション技術を利用することが不可欠です。
スポーツ時の身体周りの流体シミュレーション（流水抵抗、空気抵抗）や衣服内の温湿度分布シミュレ-

ション、衣服圧シミュレーション等、スポーツウェアの開発に有効なシミュレーション技術の構築について提言を頂きたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2019年11月8日です。

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、第一部・第二部の区分、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、2019年11月8日（当日消印有効）までに書面にて下記宛提出すること。（申請書は所定用紙または当財団ホームページより、B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合は、第42回申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと）

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2

(株)デサント R&D センター内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団 編集局

TEL 072-649-0910 FAX 072-649-0920

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し、当財団より書面にて本人宛通知する。
(2020年3月下旬の予定)

なお、入選されなかった方には、4月上旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

1件 100万～300万（研究期間2～3年、件数2～3件）

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円、優秀入選50万円 30件を予定

受賞者は、2020年6月に正式発表し、助成金は、7月

31日までに交付する。

なお、研究助成は個人またはグループを対象とし、所属機関の間接経費、一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出：

選考の結果、助成金の交付を受けた者は、所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後（図表類を含む）の研究成果報告書を下記期日までに当財団に提出すること。

第一部 研究期間により別途設定

第二部 2020年10月30日

また、同時に研究助成金使途報告書を提出すること。

詳細は入選者に別途通知する。

【研究の実施について】

人を被験者とする研究を行う場合は、学内の倫理委員会または倫理委員会がない場合は、これに準じる機関の事前承認を得たのちに実施すること。

その他の詳細については、当財団ホームページで確認のこと。

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 2020年度研究助成の公募について

1. 助成の対象

<一般公募研究>

単年度（2020年4月1日～2021年3月31日）

・医学分野：塩類の生理作用，健康に及ぼす影響に関する研究

食品科学分野：食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究

<プロジェクト研究>

3年間（2020年4月1日～2023年3月31日）

・食品科学分野：研究テーマを「風味に着目した塩味受容メカニズムの解明と食品加工における塩の有効利用に関する研究」とし，下記のサブテーマ毎に募集する。

（サブテーマ1）におい・香り成分が塩味受容に及ぼす影響に関する研究

（サブテーマ2）発酵食品等の食品加工時の風味改善のための食塩の利用研究

（サブテーマ3）食品の香味性・機能性向上のための食塩または海水の利用研究

2. 募集件数および研究助成金額

<一般公募研究>

・医学分野：16件程度

食品科学分野：9件程度

・研究助成金額：1件当たり120万円以下

<プロジェクト研究>

・食品科学分野：5件程度

・初年度助成金額：1件当たり100～200万円

3. 応募資格：日本国内の大学，公的研究機関等で研究に携わる人（学生・研究生等を除きます）。

若手研究者の積極的な応募を期待。

4. 応募方法：財団のウェブサイトから2020年度研究助成応募要領（Microsoft Word）をダウンロードし，応募要領に基づいて所定の書式に記入のうえ，書面により提出。

5. 応募期間：2019年11月1日～2019年12月10日まで（締切日財団必着）

6. 提出先：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階
電話：03-3497-5711

URL：<https://www.saltscience.or.jp>

7. 選考結果の通知：財団の研究運営審議会による審査・選考等を経て，3月に応募者へ書面で通知。

編 集 後 記

「体力科学」第68巻5号をお届け致します。本号は、「介護予防を考える」をテーマに6つの総説を掲載しております。介護予防は、ご存じのとおり、要介護状態の予防や悪化の防止を目的としますが、個人の機能回復訓練のみならず、生活環境の調整も重視し、高齢者自身が担い手となって社会活動への自主的参加・交流をはかることにより、一人ひとりの生涯にわたる、生きがいのある生活・自己実現、QOLの向上を目指すという考え方が形成されております。そこで、生きがいのある「地域づくり」が介護予防の鍵になり、自治体、住民、NPO等の協働により地域づくりが進められています。本特集では、そういった取り組みの現状と今後の課題について、体力科学の観点から、身体活動や栄養にわたり、さまざまな側面から論じられており、きっと皆様のお役に立つものと思います。私自身、20年以上の経験を持つ地域医療の勤務医として、通院患者さんが年々老いていき、介護を受ける、あるいはその手前の、いわゆるフレイル状態に陥る方々、また、そのご家族と接する機会が多くあります。医師というのは、患者さんの病気を治すのが第一の仕事ですが、それだけでは、フレイルや要介護状態は十分予防できず、介護予防の果たす役割は日々実感しております。今回の特集は大変勉強になります。また、大学では、産業医を担当しており、現在行っている予防医学の活動は、一個人の生涯の中で、働く世代から高齢者にかけて

繋がる可能性があることも改めて認識しました。一方で、運動医学の研究者としてみますと、昨今、運動する中年や高齢者がますます増えているのも、本学会の地道な取り組みによるもので、今後はもっと広い視点で研究分野を広げ、確かな科学的エビデンスを積み重ねて、この分野で更なる発展が続くことを期待しております。

本号では学会賞、奨励賞の受賞論文も紹介しております。また、新設された九州地区の地方会のうち、南九州地方会の抄録が掲載されています。地方会実行委員会の一員としましても大変嬉しく、今後も活動や交流の幅が広がることを大いに期待しております。

最後に、体力科学の査読にご協力いただいている査読者の先生方にお礼申し上げます。本誌の学術誌としての質を保証できておりますのも、先生方の熱心で、かつ教育的な査読の賜物と学会誌編集に携わるものとして感謝しております。『体力科学』は、原著論文だけでなく、本号のように特集号として総説も企画しており、多くの職種から構成される本学会においては、特に読者の理解を深め、また新しいアイデアの発案を助ける効果が期待できると思います。ぜひご活用いただきまして、皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

吉川 貴仁

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.68, No.5

体 力 科 学 第 68 巻 第 5 号

令和元年9月25日 印刷
令和元年10月1日 発行

編集兼発行者
発行所

編集事務局

印刷所

田中喜代次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社
